

---

# 経済 TOPICS

No. 157

(2019年1月23日)

## 景気ウォッチング(要旨)

### I. 日本経済「世界景気の減速が現実として認識され始めるなか、円高進行もあって、企業マインドは慎重化」

日本経済は、10～12月期にはやや高めの成長が見込まれているが、米国・中国・欧州など世界各地での景気減速の兆しが経済指標面に現れ始めたことに加え、円高進行もあり、企業マインドが慎重化しつつある。こうした状況下、金融市場では、年末にかけて長期金利・株価とも急低下し、その後も戻りの鈍い展開となっている。

もっとも、エコノミストの間では、「日本経済は、先行き当面は年率1～2%程度の堅調な成長を続ける」とのこれまでの見方に大きな変化はみられず、年明けとともに、市場は落ち着きを取り戻しつつある。

### II. 米国経済「景気は緩やかな減速局面に移りつつあり、まずは景況感の低下を示す指標が相次いでいる」

米国では、昨年みられた財政刺激効果の剥落から年明け後の景気減速が見込まれていたが、通商問題や中国経済鈍化の影響も加わり、景況感を示す指標が次々と低下を示し始めた。もっとも、成長率は昨年後半の年率3%台から鈍化するものの、本年も引続き年率2%程度の潜在成長率は維持するとみられており、また金融政策面でも柔軟な対応をしていくことが強調されている。

金融市場では、年末にかけて不安心理が高まり長期金利・株価が一時急低下したが、その後落ち着きを取戻しつつある。



京都銀行グループ

京都総合経済研究所

---